

産卵中期からの低蛋白質飼料給与による卵重抑制とコスト低減							
<p>[要約] 採卵鶏に33週齢からC P 15%の低蛋白質飼料を給与することにより、C P 17%飼料を給与した場合に比べ卵重が小さくなるが、M・L規格割合及び鶏卵販売額には差がない。また、低蛋白飼料給与により、飼料費が低減されることから、33週齢以降はC P 15%の低蛋白飼料給与が経営的に有利である。</p>							
畜産研究所・中小家畜部・家きん研究室					連絡先	092 - 925 - 5177	
部会名	畜産	専門	飼育管理	対象	家禽類	分類	普及

[背景・ねらい]

近年の卵価の低迷にともない、採卵鶏農家の経営は厳しく、一層のコスト低減が求められている。採卵鶏農家で生産コストに占める飼料費の割合は高く、飼料費を抑制することで生産コストが低減され、経営の安定が期待できる。そこで、飼料費の安価な低蛋白質飼料を給与した場合の、生産コストの低減効果について明らかにする。

また、産卵後期では卵重の増加にともないL L規格や規格外の大卵が増加し、卵価の高いM・L規格が減少する。そこで、産卵後期の卵重増加を抑制し、M・L規格割合を増加させるための低蛋白質飼料の給与方法について究明する。(要望機関名：畜産課(H8))

[成果の内容・特徴]

1. 33週齢以降にC P 15%の低蛋白質飼料を給与すると飼料費が低減され、鶏卵販売額から飼料費を差し引いた1羽あたりの差額はC P 17%飼料給与に比べ大きく、経済性に優れる(表1)。
2. 33週齢以降にC P 15%の低蛋白質飼料を給与すると、その後の卵重はC P 17%飼料給与に比べ小さくなるが、33~60週齢のM・L規格の割合、鶏卵販売額には差がない。また、産卵率、産卵日量にも差がない(図1、表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 採卵鶏農家における飼料給与管理の技術資料として活用できる。

[ 具体的データ ]

表1 21～60週齢までの1羽あたりの鶏卵販売額と飼料費（平成9～11年）

給与飼料	鶏卵販売額 円	飼料費 円	鶏卵販売額と飼料費の差額 円
33W CP15%	2553	1615	938
CP17%	2561	1651	910

注) 1. 給与飼料：

33W CP15%：21～32週齢までCP17%飼料を給与、33～60週齢までCP15%飼料を給与  
CP17%：21～60週齢までCP17%飼料を給与

2. 鶏卵販売額は9～11年の平均規格別卵価から算出した。

SS：101円/kg、S：156円、MS：164円、M：175円、L：177円、LL：167円

3. 飼料費は10～12年の4月単体飼料ふくれん販売価格から算出した

CP17%：49.9円/kg、CP15%：47.6円

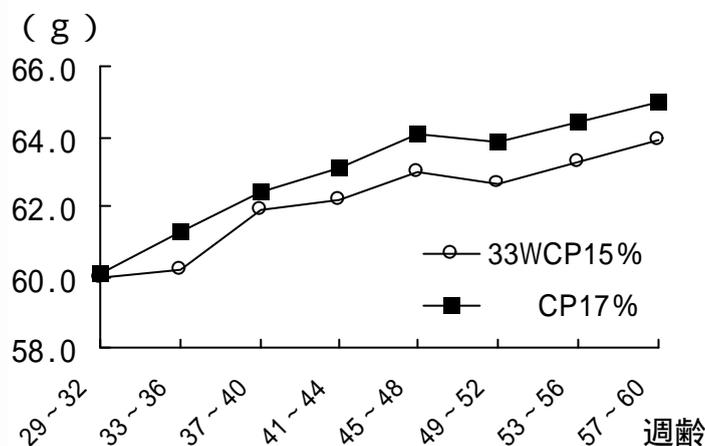


図1 平均卵重の推移（平成9～11年）

表2 21～60週齢までの産卵成績と33～60週齢までの鶏卵規格割合（平成9～11年）

給与飼料	飼料消費量	産卵率	平均卵重	産卵日量	M・L規格割合
33W CP15%	120 g	87.2%	60.6 g	52.9 g	80.8%
CP17%	118	86.4	61.4	53.1	81.8

注) 産卵日量：1羽1日あたりの鶏卵生産量

[ その他 ]

研究課題名：低蛋白飼料の効率的利用による卵重制御技術

予算区分：経常

研究期間：平成11年度（平成9～11年）

研究担当者：福原絵里子、横山学、前田統幸、西尾祐介、徳満茂、津留崎正信

発表論文等：平成9～11年度畜産関係試験成績書